

意見陳述

控訴人 須田 幸子

私たちに原発は必要ない



空知管内栗山町の須田幸子と申します。年金生活者です。2011年3月11日に起きた東日本大震災を原因とする「福島第一原発事故」は、私の価値観を一変させる出来事でした。戦争中でもないのに10万人以上が、着の身着のままで避難を余儀なくされました。「これは事故ではない、国と東電による犯罪」と、事故直後に友人に書き送りました。その思いは今も変わりません。

事故直後、夕張で小野有五先生の講演を聞き、「泊原発の廃炉をめざす会」の行動に賛同し、活動に参加してきました。その後、再稼働への抗議行動に呼応して行われたもので、18時過ぎから続々と人が集まり、その数800人。「泊原発の廃炉をめざす会」の幟を持った人、段ボールに「原発反対」と殴り書きした即製プラカードの若者、おそろいのプラカードの若い女性グループ。金髪にピアス、ギター、太鼓を抱えたカラフルな衣装の若者たち。片手に日の丸、片手に「日本が好きです。原発反対」のプラカードを持つた青年。笛や太鼓のリズムに合わせて「原発反対」「命を守れ」「再稼働反対」「泊は廃炉」とシユープレヒコールを繰り返しました。

7月5日に公表された国会の事故調査委員会報告書は、「福島原発事故は『自然災害』ではなく、あきらかに『人災』である」「2012年6月においても、依然として事

務所を知り加入しました。その後、泊原発廃炉の会・そらちに誘つて頂き、ささやかな地域活動をしています。

2012年7月から「泊原発再稼働反対」道庁前金曜日の抗議行動が始まりました。その行動の参加記録の一部を紹介させて頂きます。

7月6日「泊原発再稼働反対」

道庁前抗議行動に参加して、原発再稼働への抗議行動に呼応して行われたもので、18時過ぎから続々と人が集まり、その数800人。「泊原発の廃炉をめざす会」の幟を持った人、段ボールに「原発反対」と殴り書きした即製プラカードの若者、おそろいのプラカードの若い女性グループ。金髪にピアス、ギター、太鼓を抱えたカラフルな衣装の若者たち。片手に日の丸、片手に「日本が好きです。原発反対」のプラカードを持つた青年。笛や太鼓のリズムに合わせて「原発反対」「命を守れ」「再稼働反対」「泊は廃炉」とシユープレヒコールを繰り返しました。

7月13日の「泊原発再稼働反対」道庁前抗議行動に参加しましたが、「集会はまかりならぬ」と、物々の幟を持った人、段ボールに「原発反対」と殴り書きした即製プラカードの若者、おそろいのプラカードの若い女性グループ。金髪にピアス、ギター、太鼓を抱えたカラフルな衣装の若者たち。片手に日の丸、片手に「日本が好きです。原発反対」のプラカードを持つた青年。笛や太鼓のリズムに合わせて「原発反対」「命を守れ」「再稼働反対」「泊は廃炉」とシユープレヒコールを繰り返しました。

事故直後、電力会社ごとの電力の供給と需要状況が日々報道され、節電が求められました。一般家庭には夏場（冷房）、冬場（暖房）、夕刻（調理）の節電が奨励されました。ネオンサイン、パチンコ店の照明が落とされ、スーパー、コンビニは照明半減、それでも生活に何も不自由しません。いかに不要な照明が満ち満ちていたか思い知りました。

「原発を稼働させなければ電力会社と国が訴えていました。当時の道知事が「泊原発を動かさなければ、道民が凍死するわよ」と、のちに「もうた」とは忘れられません。電気需要が供給を上回り停電することはなく、まして道民凍死事件など起きこらず、1年、12年と乗り切り、普通の生活に原発など不要であることが証明されました。

適切電力生活はいつのまにか消え去りました。今は以前にもまして照明が明々と灯っています。

2022年、政府は脱炭素、ロシアのウクライナ侵略に伴うエネルギー供給不安を理由に、原子力発電について「原則40年、最低60年」としてきた運転期間の延長や、次世代型原子炉への建て替えを進めることを決定しました。これまでの原発依存度低減から180度転換、原発最大限活用に舵を切ったのです。国は危険を顧みず、国民の不安に背を向け、必要もない高コストの原発に固執しています。

繰り返しますが、私たちに原発は不要ない、泊原発は運転停止状態にあり、廃炉しかないと訴えて、私の意見陳述を終わります。